

平成19年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査

集計結果の概要

平成20年12月

日本私立短期大学協会
就職問題委員会

目 次

<調査1>	頁
調査の概要	1
平成元年度～平成19年度における就職決定率の推移	2
卒業生の進路状況	3
平成19年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査集計結果	
1 地域別の卒業者数・就職希望者数・就職決定者数	4
2 分野別の卒業者数・就職希望者数・就職決定者数	5
3 地域別・分野別の卒業者数・就職希望者数・就職決定者数	6
4 地域別の就職以外の進路者数	9
5 分野別の就職以外の進路者数	9
6 地域別・分野別の就職以外の進路者数	10
<調査2>	
調査票2の集計結果について	13
◎ 平成19年度卒業生の採用活動について、あるいはここ1～2年の採用動向について気付いたこと・対応に苦慮していること等	14
◎ 学生の就職意識、職業観の変化について、ここ1～2年の傾向として気付いたこと、対応に苦慮していること等	23
調査紙(縮小版)	25～27

* 本「調査結果の概要」は、平成20年度私立短大就職担当者研修会別冊資料として配布した「平成19年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査 報告書」の中から抜粋して編集したものです。

調査の概要

1) 調査の目的

毎年度、日本私立短期大学協会に加盟の全会員短大を対象に卒業後の状況調査を実施することにより、地域別並びに分野別の卒業生数・就職志望者数・就職決定者数・就職以外の進路者数等について把握し、今後の私立短期大学におけるよりよい就職支援を模索するための基礎資料とする。

なお、今年度の調査では、採用決定者の具体的状況を調査することにより、特に最近問題視されている地域間格差が短期大学卒業生の採用状況に大きく影響しているとの現状をより詳細に把握し、直面している喫緊の課題に取り組む資料を得ることとした。

2) 調査対象

日本私立短期大学協会加盟の364短大のうち、第2部(夜間部)のみ設置の4短大および新設短大・調査対象外の3校を除く357短大。

3) 調査方法

郵送法。事務局より、調査用紙(表題「平成19年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査」)を各短大学長あて調査依頼状とともに発送し、回答を求めた。

4) 調査時期

平成20年5月2日～5月28日

5) 集計回答校数

集計回答校数は、357短大中、327短大。(回答率 91.6%)

(参考)	平成元年度卒業生	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度
調査対象校	464	471	481	484	489
回答校数	405	410	431	454	467
回答率(%)	87.3	87.0	89.6	93.8	95.5
	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度
調査対象校	491	488	490	485	484
回答校数	454	458	458	460	449
回答率(%)	92.5	93.9	93.5	94.8	92.8
	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
調査対象校	470	457	442	428	405
回答校数	447	435	414	406	402
回答率(%)	95.1	95.2	93.7	95.0	99.3
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	
調査対象校	391	376	366	357	
回答校数	386	368	360	327	
回答率(%)	98.7	97.9	98.4	91.6	

平成元年度～平成19年度における就職決定率の推移

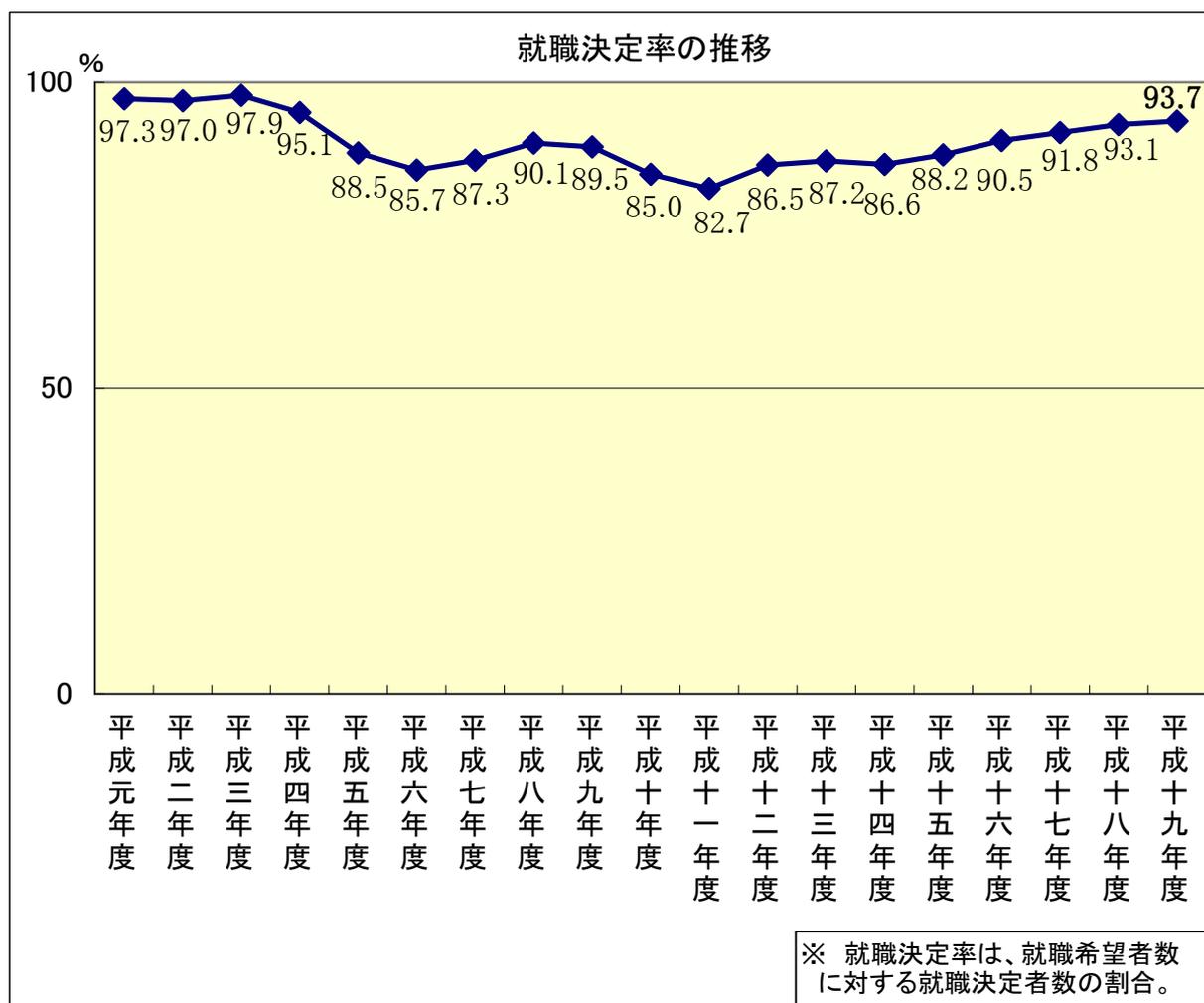
(平成20年5月)

当該年度	平成元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度
	平成2年3月卒	平成3年3月卒	平成4年3月卒	平成5年3月卒	平成6年3月卒
就職決定率	97.3	97.0	97.9	95.1	88.5

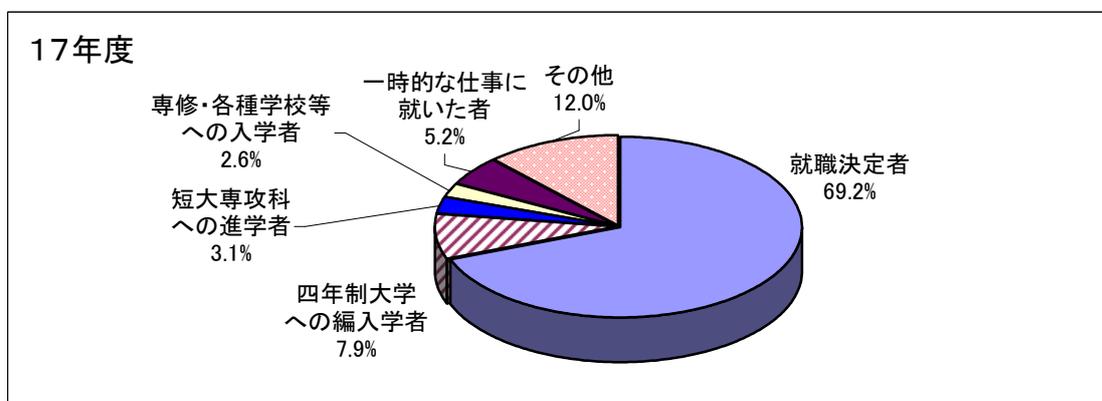
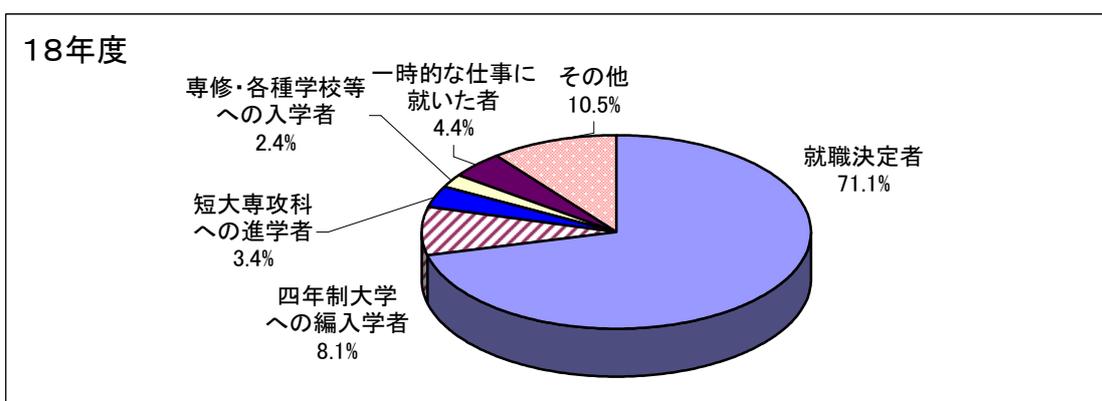
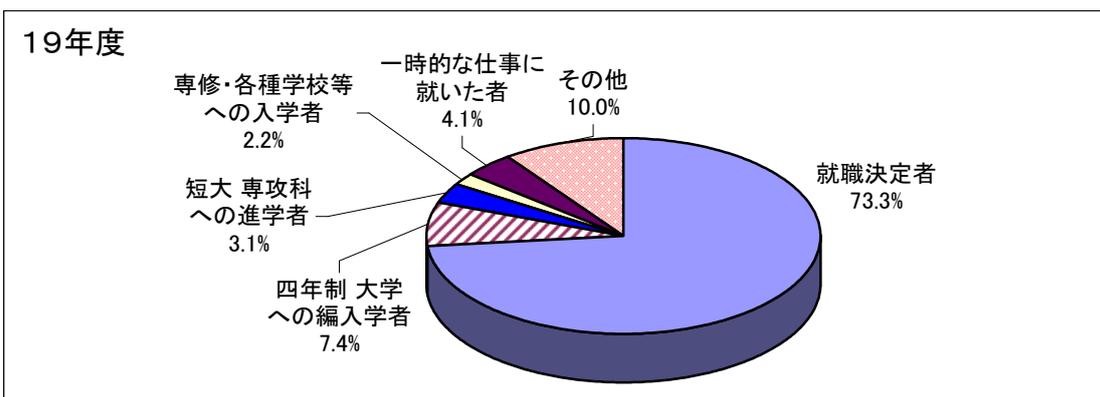
当該年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度
	平成7年3月卒	平成8年3月卒	平成9年3月卒	平成10年3月卒	平成11年3月卒
就職決定率	85.7	87.3	90.1	89.5	85.0

当該年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
	平成12年3月卒	平成13年3月卒	平成14年3月卒	平成15年3月卒	平成16年3月卒
就職決定率	82.7	86.5	87.2	86.6	88.2

当該年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
	平成17年3月卒	平成18年3月卒	平成19年3月卒	平成20年3月卒
就職決定率	90.5	91.8	93.1	93.7



卒業生の進路状況



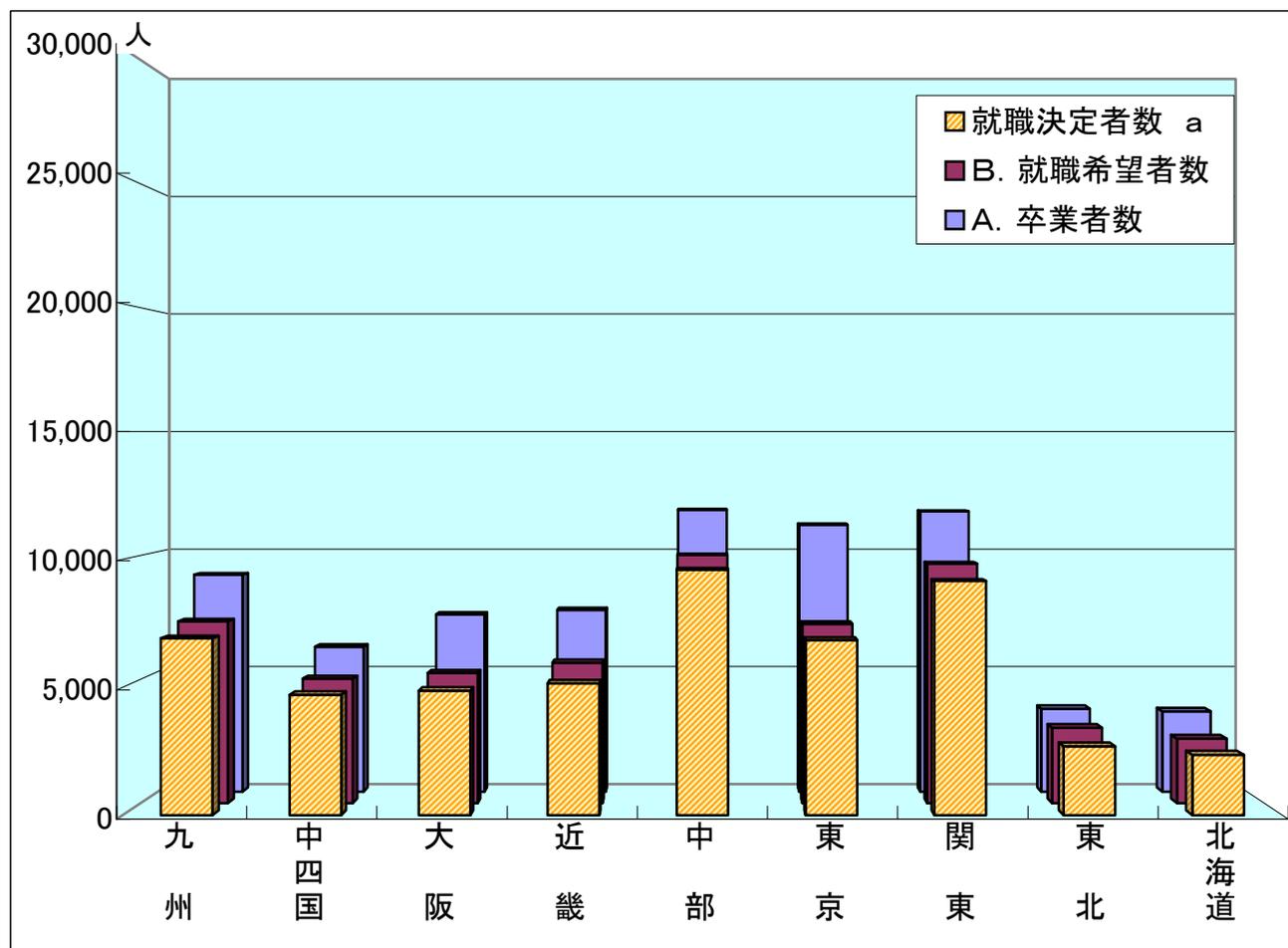
	卒業生数	就職決定者	四年制大学への編入学者	短大専攻科への進学者	専修・各種学校等への入学	一時的な仕事に就いた者	その他
19年度	71,395	52,337	5,254	2,216	1,542	2,897	7,149
18年度	82,342	58,557	6,680	2,834	1,994	3,592	8,685
17年度	85,883	59,420	6,793	2,697	2,244	4,462	10,267

平成19年度 私立短大卒業生の卒業後の状況調査 集計結果

1 地域別の卒業生数・就職希望者数・就職決定者数

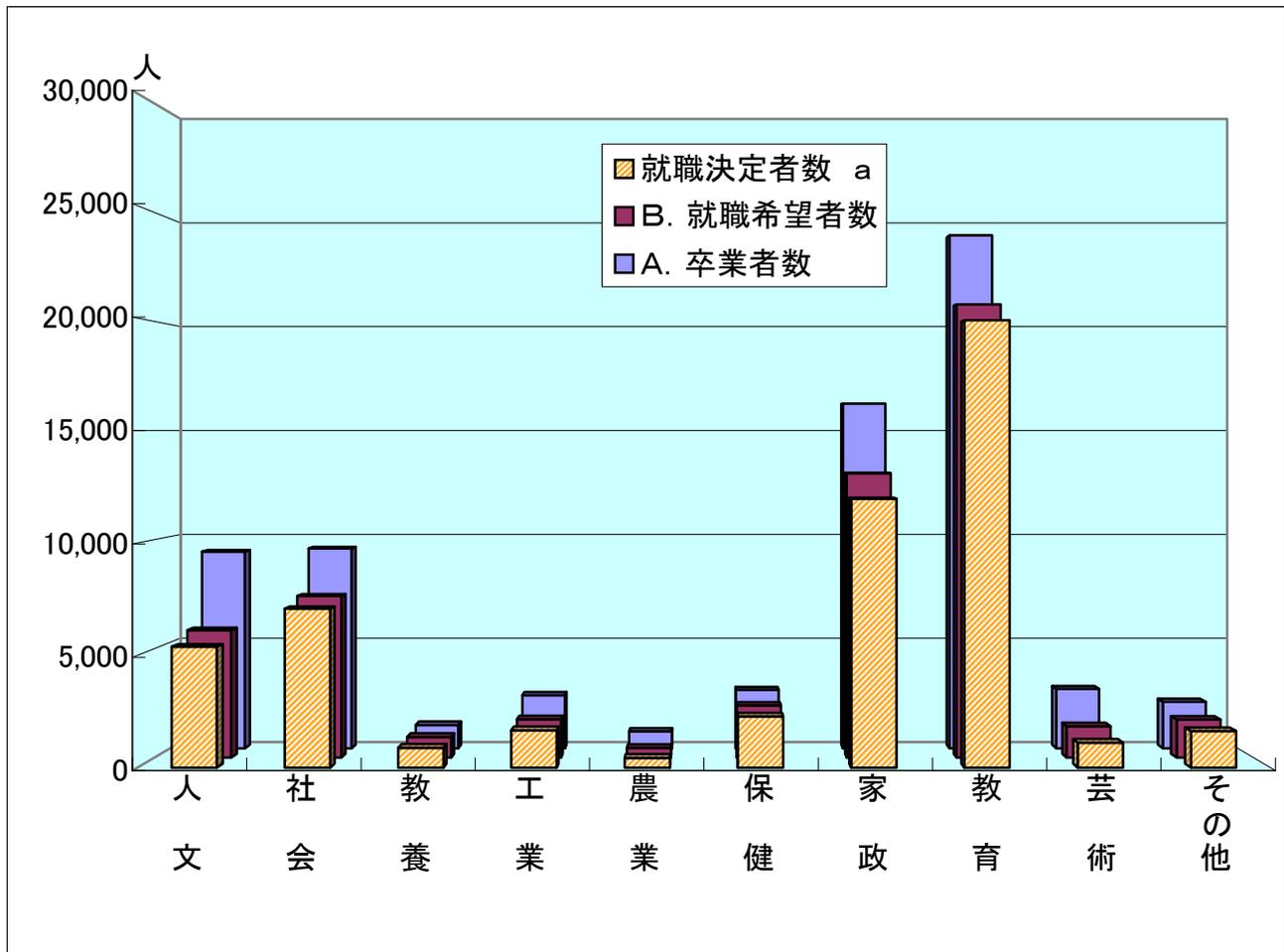
【第1部・昼間部】

	A. 卒業生数	B. 就職希望者数	就職決定者数 a	就職希望率 B/A	就職決定率 a/B
全国	71,395	55,863	52,337	78.2	93.7
北海道	3,352	2,598	2,358	77.5	90.8
東北	3,457	3,042	2,692	88.0	88.5
関東	11,675	9,671	9,161	82.8	94.7
東京	11,123	7,241	6,854	65.1	94.7
中部	11,740	10,016	9,594	85.3	95.8
近畿	7,576	5,676	5,163	74.9	91.0
大阪	7,392	5,255	4,877	71.1	92.8
中四国	6,038	5,023	4,714	83.2	93.8
九州	9,042	7,341	6,924	81.2	94.3



2 分野別の卒業生数・就職希望者数・就職決定者数

	A. 卒業生数	B. 就職希望者数	就職決定者数 a	就職希望率 B/A	就職決定率 a/B
全国	71,395	55,863	52,337	78.2	93.7
人文	9,290	5,851	5,376	63.0	91.9
社会	9,442	7,420	7,073	78.6	95.3
教養	1,107	954	890	86.2	93.3
工業	2,513	1,767	1,663	70.3	94.1
農業	798	452	433	56.6	95.8
保健	2,758	2,407	2,283	87.3	94.8
家政	16,272	13,039	11,969	80.1	91.8
教育	24,209	20,786	19,908	85.9	95.8
芸術	2,808	1,438	1,116	51.2	77.6
その他	2,198	1,749	1,626	79.6	93.0



3 地域別・分野別の卒業者数・就職希望者数・就職決定者数

地域	分野	A. 卒業者数	B. 就職希望者数	就職決定者数 a	就職希望率 B/A	就職決定率 a/B
北海道	人文	656	465	390	70.9	83.9
	社会	404	237	218	58.7	92.0
	教養	190	180	154	94.7	85.6
	工業	241	182	174	75.5	95.6
	農業	208	153	145	73.6	94.8
	家政	601	512	449	85.2	87.7
	教育	948	828	797	87.3	96.3
	芸術	104	41	31	39.4	75.6
	小計	3,352	2,598	2,358	77.5	90.8
東北	人文	317	228	188	71.9	82.5
	社会	179	165	158	92.2	95.8
	保健	141	111	108	78.7	97.3
	家政	986	882	712	89.5	80.7
	教育	1,613	1,461	1,368	90.6	93.6
	芸術	51	46	34	90.2	73.9
	その他	170	149	124	87.6	83.2
	小計	3,457	3,042	2,692	88.0	88.5
関東	人文	952	654	589	68.7	90.1
	社会	2,544	2,103	2,020	82.7	96.1
	教養	133	129	118	97.0	91.5
	工業	392	343	306	87.5	89.2
	保健	791	693	665	87.6	96.0
	家政	1,484	1,272	1,172	85.7	92.1
	教育	4,394	3,911	3,818	89.0	97.6
	芸術	553	235	156	42.5	66.4
	その他	432	331	317	76.6	95.8
	小計	11,675	9,671	9,161	82.8	94.7

地域	分野	A. 卒業者数	B. 就職希望者数	就職決定者数 a	就職希望率 B/A	就職決定率 a/B
東京	人文	2,331	1,447	1,364	62.1	94.3
	社会	1,890	1,376	1,334	72.8	96.9
	教養	181	121	121	66.9	100.0
	工業	539	201	173	37.3	86.1
	農業	480	207	197	43.1	95.2
	保健	213	188	188	88.3	100.0
	家政	3,573	2,420	2,270	67.7	93.8
	教育	1,714	1,164	1,121	67.9	96.3
	芸術	202	117	86	57.9	73.5
	小計	11,123	7,241	6,854	65.1	94.7
中部	人文	908	719	677	79.2	94.2
	社会	2,052	1,770	1,692	86.3	95.6
	教養	172	161	157	93.6	97.5
	工業	807	676	661	83.8	97.8
	保健	336	293	289	87.2	98.6
	家政	2,444	2,072	1,966	84.8	94.9
	教育	3,911	3,466	3,376	88.6	97.4
	芸術	341	215	159	63.0	74.0
	その他	769	644	617	83.7	95.8
	小計	11,740	10,016	9,594	85.3	95.8
近畿	人文	812	519	481	63.9	92.7
	社会	944	628	584	66.5	93.0
	工業	161	117	113	72.7	96.6
	農業	21	21	21	100.0	100.0
	保健	334	303	266	90.7	87.8
	家政	1,853	1,394	1,281	75.2	91.9
	教育	2,679	2,221	2,025	82.9	91.2
	芸術	461	222	174	48.2	78.4
	その他	311	251	218	80.7	86.9
	小計	7,576	5,676	5,163	74.9	91.0

地域	分野	A. 卒業者数	B. 就職希望者数	就職決定者数 a	就職希望率 B/A	就職決定率 a/B
大阪	人文	2,191	1,042	978	47.6	93.9
	社会	541	424	403	78.4	95.0
	教養	121	112	109	92.6	97.3
	保健	398	337	308	84.7	91.4
	家政	1,556	1,242	1,060	79.8	85.3
	教育	2,227	1,948	1,910	87.5	98.0
	芸術	358	150	109	41.9	72.7
	小計	7,392	5,255	4,877	71.1	92.8
中 四 国	人文	325	249	234	76.6	94.0
	社会	472	409	395	86.7	96.6
	工業	229	181	170	79.0	93.9
	保健	408	357	345	87.5	96.6
	家政	1,576	1,338	1,262	84.9	94.3
	教育	2,618	2,258	2,103	86.2	93.1
	芸術	366	194	169	53.0	87.1
	その他	44	37	36	84.1	97.3
	小計	6,038	5,023	4,714	83.2	93.8
九 州	人文	798	528	475	66.2	90.0
	社会	416	308	269	74.0	87.3
	教養	310	251	231	81.0	92.0
	工業	144	67	66	46.5	98.5
	農業	89	71	70	79.8	98.6
	保健	137	125	114	91.2	91.2
	家政	2,199	1,907	1,797	86.7	94.2
	教育	4,105	3,529	3,390	86.0	96.1
	芸術	372	218	198	58.6	90.8
	その他	472	337	314	71.4	93.2
	小計	9,042	7,341	6,924	81.2	94.3
合計	71,395	55,863	52,337	78.2	93.7	

4 地域別の就職以外の進路者数

	四年制大学への編入学者	短大専攻科への進学者	専修・各種学校等への入学者	一時的な仕事に就いた者	その他	合計
全国	5,254	2,216	1,542	2,897	7,149	19,058
北海道	293	123	46	68	464	994
東北	83	121	31	228	302	765
関東	515	323	220	373	1,083	2,514
東京	1,726	492	420	523	1,108	4,269
中部	466	375	158	300	847	2,146
近畿	619	264	200	531	799	2,413
大阪	800	75	204	410	1,026	2,515
中四国	267	207	96	226	528	1,324
九州	485	236	167	238	992	2,118

5 分野別の就職以外の進路者数

	四年制大学への編入学者	短大専攻科への進学者	専修・各種学校等への入学者	一時的な仕事に就いた者	その他	合計
全国	5,254	2,216	1,542	2,897	7,149	19,058
人文	1,479	140	355	409	1,531	3,914
社会	940	90	155	287	897	2,369
教養	47	21	25	22	102	217
工業	376	115	40	28	291	850
農業	242	4	25	23	71	365
保健	88	116	23	53	195	475
家政	889	282	488	816	1,828	4,303
教育	825	1,055	255	859	1,307	4,301
芸術	232	393	112	295	660	1,692
その他	136	0	64	105	267	572

6 地域別・分野別の就職以外の進路者数

地域	分野	四年制大学への編入学者	短大専攻科への進学者	専修・各種学校等への入学者	一時的な仕事に就いた者	その他	合計
北海道	人文	69	7	14	24	152	266
	社会	141	0	3	13	29	186
	教養	4	0	3	0	29	36
	工業	1	18	3	1	44	67
	農業	37	0	4	0	22	63
	家政	16	0	11	13	112	152
	教育	17	61	4	6	63	151
	芸術	8	37	4	11	13	73
	小計	293	123	46	68	464	994
東北	人文	21	3	10	33	62	129
	社会	7	0	2	2	10	21
	保健	8	17	3	0	5	33
	家政	24	11	7	114	118	274
	教育	17	90	4	61	73	245
	芸術	2	0	1	6	8	17
	その他	4	0	4	12	26	46
	小計	83	121	31	228	302	765
関東	人文	130	0	36	47	150	363
	社会	135	17	37	91	244	524
	教養	1	0	0	5	9	15
	工業	15	9	7	0	55	86
	保健	14	48	5	9	50	126
	家政	54	29	37	48	144	312
	教育	76	117	48	114	221	576
	芸術	47	103	31	46	170	397
	その他	43	0	19	13	40	115
	小計	515	323	220	373	1,083	2,514

地域	分野	四年制大学への編入学者	短大専攻科への進学者	専修・各種学校等への入学者	一時的な仕事に就いた者	その他	合計
東京	人文	354	110	107	106	290	967
	社会	274	6	49	69	158	556
	教養	20	15	7	8	10	60
	工業	239	0	17	18	92	366
	農業	193	4	21	22	43	283
	保健	7	4	1	0	13	25
	家政	397	159	174	216	357	1,303
	教育	232	165	34	70	92	593
	芸術	10	29	10	14	53	116
	小計	1,726	492	420	523	1,108	4,269
中部	人文	82	15	17	30	87	231
	社会	107	35	22	19	177	360
	教養	7	1	2	2	3	15
	工業	42	49	6	4	45	146
	保健	11	19	2	4	11	47
	家政	84	56	48	66	224	478
	教育	98	168	31	109	129	535
	芸術	8	32	10	33	99	182
	その他	27	0	20	33	72	152
	小計	466	375	158	300	847	2,146
近畿	人文	159	1	40	41	90	331
	社会	169	32	11	54	94	360
	工業	17	17	0	3	11	48
	保健	14	1	3	2	48	68
	家政	98	4	82	161	227	572
	教育	135	127	41	171	180	654
	芸術	16	82	15	72	102	287
	その他	11	0	8	27	47	93
	小計	619	264	200	531	799	2,413

地域	分野	四年制大学への編入学者	短大専攻科への進学者	専修・各種学校等への入学者	一時的な仕事に就いた者	その他	合計
大阪	人文	530	1	98	82	502	1,213
	社会	34	0	8	23	73	138
	教養	2	1	2	0	7	12
	保健	16	10	3	28	33	90
	家政	61	2	54	119	260	496
	教育	80	24	22	84	107	317
	芸術	77	37	17	74	44	249
	小計	800	75	204	410	1,026	2,515
中四国	人文	18	3	13	7	50	91
	社会	22	0	6	8	41	77
	工業	12	22	3	2	20	59
	保健	16	8	5	10	24	63
	家政	65	18	28	39	164	314
	教育	91	102	23	130	169	515
	芸術	41	54	16	28	58	197
	その他	2	0	2	2	2	8
	小計	267	207	96	226	528	1,324
九州	人文	116	0	20	39	148	323
	社会	51	0	17	8	71	147
	教養	13	4	11	7	44	79
	工業	50	0	4	0	24	78
	農業	12	0	0	1	6	19
	保健	2	9	1	0	11	23
	家政	90	3	47	40	222	402
	教育	79	201	48	114	273	715
	芸術	23	19	8	11	113	174
	その他	49	0	11	18	80	158
	小計	485	236	167	238	992	2,118
合計	5,254	2,216	1,542	2,897	7,149	19,058	

調査票2

◎ 平成19年度卒業生の採用決定者の処遇等

調査票2の集計結果について

本年度の調査では、特に最近問題視されている地域間格差が短期大学卒業生の採用状況に大きく影響しているとの現状を把握するため、会員短期大学の平成19年度卒業生の採用決定者について、一般企業関係と専門職関係（栄養士、保育士、幼稚園教諭、介護福祉士）の状況を調査することとし、後掲の調査票2により実施した。

今回の調査内容ははじめてのことであり、多くの会員短期大学では、採用決定者の処遇について明確に把握しているわけではないとの判断から、設問によっては回答できない、もしくは回答できる箇所だけ記入するとの短期大学が多くみられた。したがって、データとしては、かなり不揃い・不備なものが多く、ある程度の整合性を考慮に入れて集計を行ったが、集計結果が短期大学卒業生の正確な状況を表しているとは言い難い。特に専門職関係については、地域によって、当該設置学科を開設している短期大学数がまちまちの中で、回答が揃わず、職種によっては回答が皆無となった都道府県もある。少数のデータを集計せざるを得なかった都道府県の集計結果が過剰に判断されることを危惧する。そのような事情から、今回、集計結果のデータの掲載は割愛することとした。ご了承ください。

なお、19年度卒業生の一般企業および専門職関係の採用活動全般について、また学生の就職意識、職業観の変化について、ここ1～2年の傾向として気付いたこと、対応に苦慮していること等、忌憚のないご意見をいただいたので、そのそれぞれについて概略をまとめて以下に報告する。



19年度卒業生の採用活動について、あるいはここ1～2年の採用動向について気付いたこと、対応に苦慮していること等

一般企業および専門職（栄養士、保育士、幼稚園教諭、介護福祉士）におけるそれぞれの採用動向について、ここ1～2年の傾向として気付いたこと、対応に苦慮していることなど、記述された内容をそれぞれにまとめて報告する。

一般企業関係

【共通事項】

- ◆企業の採用スケジュールの早期化が顕著であり、すべてのブロックから意見が出されている。影響としては、授業・試験と選考日程が重複する、学生の就職試験対策が追いつかない、各種証明書等の発行が間に合わない等が挙げられる。
- ◆短大生対象の求人数の減少がほぼ全てのブロックで見られる。原因としては、単純に求人数自体を減らしている企業や、事務職を四大生に開放したり四大生のみを対象とする企業の増加等がある。
- ◆一般労働者派遣、紹介予定派遣等の非正社員求人の増加が多くのブロックで見られる。特に、アパレル等の販売職で契約社員の形態で募集する企業が目立つ。

【各ブロックから出ている特徴的な意見】

● 北海道：

- 地元求人の減少
- 欠員補充型求人の増加
- 内定が出やすい学生と全く出ない学生の二極化が著しい
- インターネット上で動くため、学生の動向が把握しづらい

● 東北：

- 一般企業希望者が増加（専門職をメインにした学科でも一般企業希望者増）
- 内定辞退をした企業への対応や辞退を希望する学生への対応に苦慮
- 一般事務や販売職を希望する学生が多い反面、求人は少ない

● **関東：**

短大生求人が減少したとの意見が大勢を占める一方、増加しているとの意見もある
大手を中心に選考が厳しくなっている
基本給を低く設定し、各種手当で補填する企業が増えている
学生の動向が把握しづらくなっている
採用活動が全体的に早期化しているが、遅く設定している企業も少なくない。

● **東京：**

大手を中心に選考が厳しくなっている
売り手市場のためか、学生の動きが遅く、志望動機が不十分
早期に内定承諾書の提出を求めたり、内定前にアルバイト研修を課す企業増加

● **中部：**

地元求人の増加
求人票の内容と実際の待遇にギャップがある企業がある
日給・月給制の企業増加
学生の大手志向・選り好みが顕著になった
学校推薦求人における合格率の低下
業種間・企業間・地域間格差が拡大
自動車メーカーや関連企業の求人数の増加が著しい
個人面接重視を重視する傾向

● **近畿：**

エリア外企業の求人増加
求人活動を外注する企業が増加
学生のモチベーション低下

● **大阪：**

事務職求人が減少する反面、営業職求人が急増している。
短大生の学力・資質低下のためか、四大生に採用がシフトしている。
初期段階での合否が学力重視の傾向があり、学生本人の持ち味が評価されにくい

● **中国・四国：**

求人企業の業種が多岐にわたる。特にアミューズメント求人の増加が目立つ
グループ面接・グループワークの増加
売り手市場といえども、まだまだ厳しい

● **九州：**

事務職を希望する学生が増えている一方、事務職求人は少ない
採用のハードルが高くなっている。

栄養士

I. 【共通事項】

○有効回答校数：67 （特になし・変化なしの回答は集計対象外と致しました）

注）下記件数合計と有効回答校数は、複数項目の記述により一致しません。

①給食受託会社に関する記述	：	36件
②雇用条件・勤務環境等	〃	31件
③専門職就職状況・傾向等	〃	13件
④採用試験・スケジュール等	〃	10件
⑤その他	〃	8件

具体的な、主な記述内容は次のとおり。

①給食受託会社に関する記述

・給食受託会社の求人増加	・直営の求人減少
・給食受託会社への就職希望者減少	・内定辞退・短期離職等

②雇用条件・勤務環境等に関する記述

・派遣・契約社員が増加	・一般企業に比べ給与が低い
・勤務体制がはっきりせず厳しい現状	

③専門職就職状況・傾向等に関する記述

・四大志向（管理栄養士）の求人増加	・専門職離れ
-------------------	--------

④採用試験・スケジュール等に関する記述

・時期が遅い	・早期化・長期化
--------	----------

II. 【地域の特徴】

ブロック	特 徴
北海道	給食受託会社の求人・採用が主、学生の応募の決断が遅れる。
東 北	〃、非正規採用が増加、四大志向、採用時期が遅い
関 東	〃、待遇が悪く格差有り
東 京	〃、採用の早期化・長期化、専門職離れ
中 部	〃、待遇が悪く格差有り
近 畿	〃、専門職離れ
大 阪	〃
中・四国	〃、待遇が悪い、四大志向
九 州	〃、待遇が悪い、専門職離れ

保育士

意見記述回答学校数計 142校
(ブロック別内訳) 北海道 5校、東北 11校、関東 24校、東京 10校、中部 23校
近畿 16校、大阪 9校、中国・四国 20校、九州 24校

1. 採用待遇に対する意見

①非正規雇用の増加について(臨時、期限付き、パート等の増加)

142校中69校(48.6%)から、非正規雇用の増加についての意見が寄せられた。
地域別に見ると、下記の通り、九州地区が最も高く、東京が最も低い。

地域	当該意見校数	回答校数	回答学校に占める割合(%)
北海道	3	5	60.0
東北	7	11	63.6
関東	4	24	16.7
東京	1	10	10.0
中部	15	23	65.2
近畿	4	16	25.0
大阪	6	9	66.7
中国・四国	12	20	60.0
九州	17	24	70.8
合計	69	142	48.6

なお、県別の特徴として、愛知県において、回答を寄せたすべての短大が、また福岡県では12短大のうち10校が非正規雇用の増加を感じている。

県名	当該意見校数	回答校数	回答学校に占める割合(%)
愛知県	6	6	100
福岡県	10	12	83.3

②給与・勤務待遇について(給与が低い、一般企業との格差、専門職離れ等) 8校

(東北2校、関東3校、中部2校、中国1校)

③男子学生の採用について(採用人数が少ない、厳しい勤務待遇) 5校

(北海道、関東、東京、関西、中国各1校)

※男子の採用が増加(東北1校)

2. 地域における特徴的な意見

- 就職先を札幌市内又は近郊を希望する学生が多く、地方から来ている学生で地元から来た求人に対する対応がむずかしい。(北海道)
- 認定こども園(幼保連携型)、学童保育所、早期、夜間保育等保育士の雇用形態が多様化。(関東)
- 年度の後半に集中している。給与に地域差がある。茨城県内の動きが遅かった為、希望通りの活動がなかなかできない学生がいた。(関東)
- 企業運営の保育所が激増している。(東京)
- 幼保一元化により幼稚園教諭・保育士の両資格を取得していることが望ましくなっている。(関西)

3. その他の意見

- ◎ 求人数の増加について 12校（関東2校、東京4校、中部2校、関西2校、大阪1校、中国1校）
- ◎ 求人数の減少について 2校（関東1校、四国1校）
- ◎ 公立保育所について 4校
 - * 採用数減少 関東・中部・中国各1校、
 - * 試験日重複の問題 関西1校
- ◎ 採用側に対する苦情について 8校
 - * 求人票未提出 関東2校 九州1校
 - * 合否結果が遅い 関東2校
 - * 不適切な面接 関東1校
 - * 採用側の都合による内定取消し 関西1校
 - * 採用基準が不明確 中国1校
- ◎ 学生の問題について 2校
 - * 受験意欲の欠如 東北1校、
 - * 求人数はあるが、採用条件や勤務地など、希望する求人が少なく、仕事に対しての学生の意識や応用力が伴わない 関西1校

幼稚園教諭

【共通事項】

全国の幼稚園教諭に対する採用動向として、求人状況(数・条件)で、大都市圏とそうでない地域での格差が顕著に表れている。

また、園側の学生・大学への要求が高まっている一方で、学生資質の低下と非正規雇用も含めた雇用条件の悪化の需給関係のアンバランス化が希望学生減少の原因のひとつと考えられる。

多く寄せられた意見を大別する下記の通り。

1. 求人状況	大都市とそうでない地域での求人増・減(潤沢と少ない)格差が顕著。
2. 非正規社員	全国的に増加傾向。1.同様に格差が顕著。
3. 園の求める資質の高まり	特に近畿以西での高まりが顕著。
4. 雇用条件(職場環境含む)が悪化	低賃金、残業時間多、採用条件と就業後の条件が違うなど全国で経営者の意識も含めた雇用条件の改善を求める声が多い。
5. 求人時期について	中部・関西地区での早期化、関東・九州地区での年度末との声が多い。希望学生の減が影響か？
6. その他	1. 就職希望学生の減 — 特に中部以西地域で多い。 2. 男子学生への差別 — 男子学生への求人が少ない、給与が低いことにより学生指導に苦慮との声が聞かれる。

【地域による傾向】

下記の項目について、地域による特徴が表れている。

	北海道	東北	関東		東京	中部	近畿	大阪	中国 四国	九州	計
			北関東	首都圏							
1 入職前の実習多し(但し、無給)	1	1						1			3
2 求人少、減		2	3	1		2	3	1	4	3	19
3 非正規社員増		2	1	1		3		1	4	2	14
4 園の求める資質レベルの高まり		1		1	1		3	2	2	1	11
5 男子学生への差別(求人少)			2			2			1		5
6 採用試験に実習			2	1							3
7 求人時期(年度末)				1	1					2	4
8 求人時期(早期化)				1		3	1	1	1	1	8
9 求人豊富、増				3	3			1			7
10 雇用条件悪(職場環境含む)				3		4	1	1	4		13
11 希望学生減					1	1	2	2	2	4	12

介護福祉士

【共通事項】

各校ともほぼ次の内容について報告されていた。

- ・ 求人件数の増加
- ・ 求人時期の早期化（長期化）
- ・ 雇用条件の改善があまりなされていない。
- ・ 介護福祉士の人気の下落（専門職につかない学生の増加）
→入学者確保が難しくなっている。

【地域の特徴】

共通事項を除くと次の通りである。

- ・ 北海道…学生の就業地選択がマッチせず、受験までいたらない。
- ・ 青 森…正職員としての採用が少なくなっている。
- ・ 秋 田…正職員としての求人増加や給与額の増加傾向が見られる。
- ・ 千 葉…待遇面の改善が見られる。
- ・ 富 山…給与は少し増加しつつある。
- ・ 滋 賀…資格不問の求人が増加している。
- ・ 山 口…期限付き雇用が大部分である。
- ・ 福 岡…基本給の引き上げが少しずつではあるが、なされている。
- ・ 宮 崎…正職員採用が増えてきている。

一般企業および専門職における採用動向全般について、ここ1～2年の傾向として気付いたこと、対応に苦慮していることなど、記述された内容をまとめると以下の通り。

◆全般的に共通した課題は「求人・採用時期の早期化」ということであった。この早期化の進展に伴い、下記のような問題が顕在化してきているとの指摘があった。

- ① 求人・採用時期の早期化に伴い、学生の就職意識を高めることに苦慮している。
- ② 早期に内々定を受けた学生の意識が時間の経過と共に変化していく。この変化に対してキャリアセンターやカウンセラーはどのように対応したらよいのか苦慮している。
- ③ 企業は早期内定者に対して、承諾書や誓約書の提出を求め、囲い込みを図ろうとしている。
- ⑤ 求人・採用時期の早期化に伴い、「二極化」現象が鮮明になってきている。即ち、複数の企業から内定をもらう学生がいる一方で、内定をもらうことができず、就職活動が長期化する学生が目立ってきている。このような学生に対する指導に苦慮している。

◆雇用状況についてはさまざまな意見が寄せられた。地域による特徴や傾向が見受けられるが、一般的に下記のことを指摘されていた。

- ① 求人件数・求人数については、関東地方・中部地方・関西地方などを中心に増加しているが、雇用条件などは相変わらず厳しい状況にある。
- ② 契約・非常勤・臨時など雇用形態の多様化は定着した感がある一方、正規職員への採用を求める学生のニーズは相変わらず大きく対応に苦慮している。
- ③ 幼稚園教諭、保育士、栄養士、調理士、ヘルパー（介護）などの職場での、正規職員の採用が減少している。給与等雇用条件面でも低下の傾向が見られる。また、企業の採用時期とのずれが拡大している。このような状況から、専門職への就職を忌避する傾向が現れてきている。

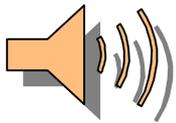
◆企業等採用側に対する注文についての指摘があった。

- ① 企業の求人・採用についての姿勢に問題があるとの指摘があった。求人票の採用条件と内定後の雇用条件とが著しく違っていた。
- ② 企業等は新人研修にもっと力を注いで欲しい。早期離職者の問題は新人教育の不足に原因があるのではないか。

◆学生指導・学生生活の面での問題についての意見が多数あった。

- ① エントリーシートによる就職・採用活動は学生・企業にとってはメリットが大きいですが、学生個々の積極性や自主性が求められるようになってきている。他方、指導する大学にとっては、学生の就職活動状況が把握しづらくなってきている。
- ② 企業の採用活動が平日（授業時）に実施されるため授業が成立しないなど学業に影響が出ている。
- ③ 1年次から就職活動を行うことにより、大学生活に慣れ親しむ時間が減少しており、その結果、専門性を活かした就職から離れてしまうのではないかと危惧される。

◆最後に、少数ではあるが「格差」の問題についての指摘があった。業種・職種によって違いはあるが、雇用面や待遇条件によって、地域間格差を生じているというものである。



学生の就職意識、職業観の変化について、 ここ1~2年の傾向として気付いたこと、対応に苦慮していること等

1. 就職意識に大きな変化はない、意欲は高くなっている（9）

「大きな変化はない」と記述の短大は5校、「意識が高くなっている」と記述の短大は4校で、地域に偏りはない。

2. 就職意識の二極化が顕著になっている（28）

就職意識や就職活動に対する積極性が二極化しているとの意見が多く出ていた。地域では東京、名古屋、大阪等 求人の多い地区の短大が大半であった。積極的な学生も希望業種や動機が不明確なままの活動を開始し、安定志向も強く、対人コミュニケーション力の弱い学生も多いのが現状で、一人ひとりへの対応に苦慮している様子が記述されていた。

3. 就職意識、職業観、基礎学力、基本的マナーが低下している（68）

この項目への記述が一番多く、177校の回答のうち68校が就職意識や基礎学力、マナーの低下を書いていた。無目的、無目標な学生が増加し、就職意識も低下していることから、自分の方向を見つけられない学生、求人時期に添った活動も出来ず、自分に合うものがなければ無理して就職しないという学生が増えている。さらにこだわりすぎの学生や企業研究不足なのに短絡的に結果を出す学生の増加など就職支援担当者としての苦悩が表れていた。

4. 専門職への就職意識が希薄になっている（19）

専門を学び、免許・資格を取得しながら、求人の時期が企業より遅いことや、実習経験後に仕事の難易度や、労働条件などから安易な選択をする学生が増加し、専門職へのこだわりが薄れつつあるのではないかとの声も多く出ていた。

5. 楽な仕事やフリーターでもいいという学生も増加している（17）

夢を持たない学生や職業観が乏しいことも影響し、コツコツ努力するより楽な仕事を選ぶものや、臨時・非常勤でもいいという学生が地区関係なく増加していると記述されている。さらに活動に行き詰ると活動を止め、定職に就かず、アルバイトやフリーターでもいいとする学生も多くなることから、粘り強い対応の必要性が述べられていた。

6. あこがれ、ウワサ、メディアの影響で職業選択をする学生がいる（5）

自己分析、企業研究を行なった後、職業選択するよう指導しているが、あこがれやウワサ、メディアの影響で職業選択をする学生や、自分の能力や適性に関わらず有名企業を志望する学生などの対応に悩む声に関西地区に多く出ていた。

7. 地元志向が強くなっているが地方経済が低迷し、正社員が減少（6）

地元志向が強く、多くなっているが地方経済の影響で契約などが増加しているとの担当者としての悩みが、中国地区に見られた。

8. 企業研究不足でのミスマッチ、早期退職が増加（9）

企業研究不足でのミスマッチ、早期退職が増加している。自分の将来像を描けないまま就職することが離職率の高さに繋がっているとの声も見られた。

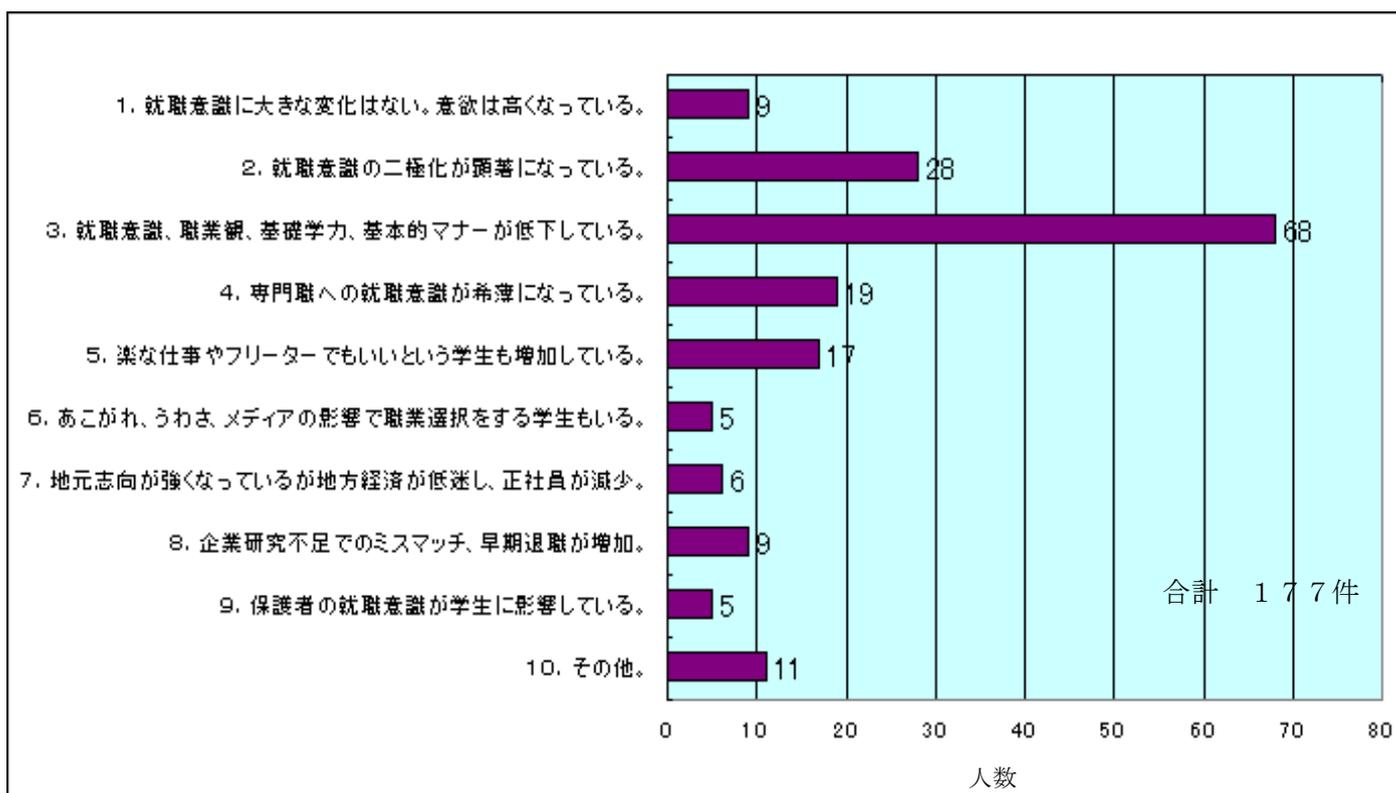
9. 保護者の就職意識が学生に影響（5）

学生の職業観の低下に加え、親の考え方も影響しているとの声もみられた。

10. その他／学生への応援メッセージなど（11）

学生の就職意識、職業観の変化についてここ1～2年の傾向として特に気づいたこと

1. 就職意識に大きな変化はない。意欲は高くなっている。	9
2. 就職意識の二極化が顕著になっている。	28
3. 就職意識、職業観、基礎学力、基本的マナーが低下している。	68
4. 専門職への就職意識が希薄になっている。	19
5. 楽な仕事やフリーターでもいいという学生も増加している。	17
6. あこがれ、うわさ、メディアの影響で職業選択をする学生もいる。	5
7. 地元志向が強くなっているが地方経済が低迷し、正社員が減少。	6
8. 企業研究不足でのミスマッチ、早期退職が増加。	9
9. 保護者の就職意識が学生に影響している。	5
10. その他。	11
計	177



【調査票】

整理番号

平成19年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査

記入しないでください

日本私立短期大学協会
就職問題委員会
(提出締切期日 平成20年5月28日)

1

短大名	*	記入者氏名	就職関係部署名		*		
			1 職員のみで構成	2 職員・教員で構成			
※該当する番号を○で囲んでください。							
短大所在	*	電話番号(代表)	就職関係部署直通	TEL	*	FAX	*
都道府県名	*		就職関係部署 E-mail アドレス	*			
※公表のものがありましたらご記入ください。							

注) *印欄にご記入された内容は、報告書作成の際、一覧表にて公表させていただきます。

* 貴学の平成19年度卒業生の分野別就職希望者数・決定者数・就職以外の進路者数・卒業者数をご記入ください。

分野別学科名	1.人文	2.社会	3.教養	4.工業	5.農業	6.保健	7.家政	8.教育	9.芸術	10.その他
当該設置学科名 (出身学科名)										
就職希望者数										

就職決定者数 (a)		1.人文	2.社会	3.教養	4.工業	5.農業	6.保健	7.家政	8.教育	9.芸術	10.その他
就職以外の進路者数	進学者										
	四年制大学への編入学者										
	短大専攻科への進学者										
	専修・各種学校等への入学者										
	一時的な仕事に就いた者										
その他(上記以外の者)											
計 (b)											

卒業生数 a+b	1.人文	2.社会	3.教養	4.工業	5.農業	6.保健	7.家政	8.教育	9.芸術	10.その他

<記入上の注意>

- 上記の各項目・各分野における人数は、平成20年5月1日現在の第1部(昼間部)の状況をご記入ください。
- 分野別学科名については、同封別紙「分野別学科一覧」表を参照してください。
- 当該設置学科名については、卒業生の出身学科名をご記入(タテ書きでも結構です。)ください。(学科名称のみで、専攻名は不要。)
- 各欄に記入する人数は、同一分野で2学科以上を開設している場合は、その合計数をご記入ください。
(例:食物栄養科と生活科学科を開設の場合は、「家政」欄の「当該設置学科名」欄にそれぞれの名称を記入し、以下の欄に合計数を記入。)
- 「一時的な仕事に就いた者」とは、例えばアルバイト、パートなどの臨時的な収入を目的とする仕事に就いた者をいいます。
- 卒業生数は、就職決定者数の合計(a)と就職以外の進路者数の合計(b)を足し合わせた数になります。

就職問題委員会では、特に最近問題視されている地域間格差が短期大学卒業生の採用状況に大きく影響しているとの現状を把握するため、下記のとおり、貴学採用決定者の状況をお伺いすることとなりました。
 つきましては、お手数をおかけいたしますが、一般企業 および貴学で該当する下記の専門職種のそれぞれの項目について、19年度卒業生の採用決定者の状況(具体的数字)をお知らせくださいますようお願いいたします。
 本調査結果は、今後の短期大学における採用活動に資する貴重な資料となりますので、是非ともご回答くださいますようお願いいたします。

【一般企業関係】・・・平成19年度卒業生の採用決定者の処遇等について ※全会員校対象

1 基本給与の高い順に3社の状況

都道府県名を記入 労働条件等に特記事項があれば記入

	A 基本給	B 諸手当の合算額	C 初任給(総額/A+B)	賞与	勤務地	特記事項
最も高い	1	円	円	円 年__回__ヶ月分		
	2	円	円	円 年__回__ヶ月分		
	3	円	円	円 年__回__ヶ月分		

2 基本給与の低い順に3社の状況

	A 基本給	B 諸手当の合算額	C 初任給(総額/A+B)	賞与	勤務地	特記事項
最も低い	1	円	円	円 年__回__ヶ月分		
	2	円	円	円 年__回__ヶ月分		
	3	円	円	円 年__回__ヶ月分		

3 一般企業の採用動向について、ここ1～2年の傾向としてお気付きのこと、対応に苦慮していることなど具体的にお書きください。

【専門職関係】・・・資格取得者に対する平成19年度卒業生の採用決定者の処遇等について ※下記の資格者を養成している会員校を対象

★ 栄養士

1 基本給与の高い順に3(校・社・施設等)の状況

該当する方に○印 都道府県名を記入 労働条件等に特記事項があれば記入

	A 基本給	B 諸手当の合算額	C 初任給(総額/A+B)	賞与	雇用形態	勤務地	特記事項
最も高い	1	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		
	2	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		
	3	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		

2 基本給与の低い順に3(校・社・施設等)の状況

	A 基本給	B 諸手当の合算額	C 初任給(総額/A+B)	賞与	雇用形態	勤務地	特記事項
最も低い	1	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		
	2	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		
	3	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		

3 栄養士としての採用決定者の雇用形態の状況

栄養士としての採用決定者 _____名 …内訳: 正規雇用者/公立 _____名 正規雇用者/私立・民間 _____名
 期限付き雇用者/公立 _____名 , 期限付き雇用者/私立・民間 _____名
 その他(_____) _____名

4 栄養士の採用動向について、ここ1～2年の傾向としてお気付きのこと、対応に苦慮していることなど具体的にお書きください。

★ 保育士

1 基本給与の高い順に3所(園)状況

該当する方に○印 都道府県名を記入 労働条件等に特記事項があれば記入

	A 基本給	B 諸手当の合算額	C 初任給(総額/A+B)	賞与	雇用形態	勤務地	特記事項
最も高い	1	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		
	2	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		
	3	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		

2 基本給与の低い順に3所(園)の状況

	A 基本給	B 諸手当の合算額	C 初任給(総額/A+B)	賞与	雇用形態	勤務地	特記事項
最も低い	1	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		
	2	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		
	3	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		

3 保育士としての採用決定者の雇用形態の状況

保育士としての採用決定者 _____名 …内訳: 正規雇用者/公立 _____名 正規雇用者/私立・民間 _____名
 期限付き雇用者/公立 _____名 , 期限付き雇用者/私立・民間 _____名
 その他(_____) _____名

4 保育士の採用動向について、ここ1～2年の傾向としてお気付きのこと、対応に苦慮していることなど具体的にお書きください。

★ 幼稚園教諭

1 基本給与の高い順に3園の状況

該当する方に○印 都道府県名を記入 労働条件等に特記事項があれば記入

	A 基本給	B 諸手当の合算額	C 初任給(総額/A+B)	賞与	雇用形態	勤務地	特記事項
最も高い	1	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		
	2	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		
	3	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		

2 基本給与の低い順に3園の状況

	A 基本給	B 諸手当の合算額	C 初任給(総額/A+B)	賞与	雇用形態	勤務地	特記事項
最も低い	1	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		
	2	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		
	3	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		

3 幼稚園教諭としての採用決定者の雇用形態の状況

幼稚園教諭としての採用決定者__名 → 内訳: 正規雇用者__名
 期限付き雇用者__名
 その他()__名

4 幼稚園教諭の採用動向について、ここ1~2年の傾向としてお気付きのこと、対応に苦慮していることなど具体的にお書きください。

★ 介護福祉士

1 基本給与の高い順に3施設等の状況

該当する方に○印 都道府県名を記入 労働条件等に特記事項があれば記入

	A 基本給	B 諸手当の合算額	C 初任給(総額/A+B)	賞与	雇用形態	勤務地	特記事項
最も高い	1	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		
	2	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		
	3	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		

2 基本給与の低い順に3施設等の状況

	A 基本給	B 諸手当の合算額	C 初任給(総額/A+B)	賞与	雇用形態	勤務地	特記事項
最も低い	1	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		
	2	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		
	3	円	円	円 年__回__ヶ月分	正規 期限付		

3 介護福祉士としての採用決定者の雇用形態の状況

介護福祉士としての採用決定者__名 → 内訳: 正規雇用者__名
 期限付き雇用者__名
 その他()__名

4 介護福祉士の採用動向について、ここ1~2年の傾向としてお気付きのこと、対応に苦慮していることなど具体的にお書きください。

● その他の専門職、あるいは、全般的に19年度卒業生の採用活動、あるいはここ1~2年の採用動向についてお気付きのこと、あるいは対応に苦慮していることがありましたら、具体的にお書きください。

◎ 学生の就職意識、職業観の変化について、ここ1~2年の傾向として特にお気付きのこと、あるいは対応に苦慮していることなどありましたら、具体的にお書きください。

***ご回答ありがとうございました。

<お願い>

お手数をおかけいたしますが、本調査票の 1 と 2 を併せて(留めずに)、来る5月28日 までに郵送にてご返送ください。

(送付先: 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25 日本私立短期大学協会「就職問題委員会」係)